

世界遺産アカデミー認定講師 File No.30

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第30回目の今回は、世界一周旅行から帰国後、“世界遺産旅行カウンセラー”を目指しご活動されている、WHA賛助会員の近藤好範(こんどう・よしのり)さんです。

世界史から引き寄せられた世界遺産

小さな頃から歴史が大好きで、様々な本を読んできました。個人的には『三国志』が好きで、横山光輝氏を愛読。『項羽と劉邦』、『史記』も読破しました。世界史はトップの成績でしたが、史学部ではなく法律の道へ。社会人となってからは、趣味として歴史関係の書籍を読み漁りました。そんな中、本屋巡りをしていて、偶然、世界遺産検定のテキストを見つけ、世界史好きの延長として、興味が湧きました。最初は2級と3級併願合格。点数は大きな声で言えませんが、読書から得た歴史知識で、うまく乗り切れたと思います。1級はさすがに難しく、本腰を入れて勉強しましたね。1級リスタ制度は、他の認定講師の方々のお話を聞くと、どうしてあんなに高得点が取れるんだろう、と尊敬します。

毎年新規物件が20件以上は増えていますから、5年で100件。リスタへの挑戦は、若干、躊躇してしまいます。ただ、世界遺産の知識が増えていくことは、歴史の知識が増えていくこと。知っていた場所が世界遺産だと、ああやっぱり!と嬉しくなりますし、知らなかった世界遺産も想像が膨らみます。世界遺産を勉強すればするほど、実際に訪れたい気持ちが強まりました。そして私は、世界一周旅行を決意したのです。

一念発起して、世界一周旅行

和食料理人の実弟が独立し店を構えたことに刺激を受けたこともあり、思い切って会社を退職し、2015年、世界一周旅行に出発。期間は1年、「世界一周航空券」を使つての周遊です。オセアニア、オーストラリア、ニュージーランド、南米と続いて、北上しました。1月の出発でし



世界一周旅行中、アマゾン川源流をカヌーで遡る、近藤好範さん

たので、南半球の暖かさを追って、北半球に向かうコースでした。

世界一周旅行中のエピソードは数え切れません。アルゼンチンの文化遺産『ピントウラス川のクエバ・デ・ラス・マノス』を訪れた際は、田舎の村で、カードは使えない、ATMも使え



アマゾン川流域に生息するナマケモノとのツーショット!

ない、両替屋はもちろんありません。現地ペソ紙幣を持っていなかった私は、焦りました。地元のツアー会社が幸いにもドル紙幣を両替してくれましたが、危うく路頭に迷う寸前でした。また、カードの使えない国はイスラム圏に多くあるので、ドバイ空港でATMを利用してみる

と、今度は外貨が引き出せない。ただ、イランの人々は旅人、特に日本人旅行者にとっても親切。食べ物をたくさんくれるので、食事には困りませんでした(笑)。治安という点、モロッコでは、首都ラバトからマラケシュに向かう列車の中、親しげに声をかけてきた男性が、一瞬のスキをつけて、パスポートや財布など貴重品の入ったポーチを盗んで逃走。独りうな垂れていると、現地の人たちはやはり優しいですね。首都ラバトの日本大使館まで連れて行ってくれました。ブエノスアイレスのような華やかな首都でも、バスの窓から見たスラム街は、想像を絶する貧困や不衛生な様相で、言葉を失いました。

そして、忘れもしない2015年8月21日。高速列車タリスで発生したテロ現場に遭遇しました。タリスは、ドイツから、オランダ、ベルギー、フランスと4カ国を繋ぐ国際列車です。「タリス銃乱射事件」として記憶されている方もい

らっしゃるかもしれません。ブリュッセルに日帰り観光し、パリへの帰途として乗車していました。通常はブリュッセル(南駅)からパリ(北駅)まで直通ははずなのに、突然、列車が急停車したのです。窓の外に視線を移すと、車内販売の売り子さん達が慌てた様子で列車から飛び出し、走り去って行く。訝しげに思っていると、電車が動き、また暫くして、停まるはずのない駅に停車。すると、銃を構えた警官や屈強な軍兵らが一斉に乗り込んできたのです。「グラン＝プラス」の余韻は一転。強制的に列車から降ろされ、近くの体育館らしき施設に連れて行かれました。フランス語で状況説明されたのですが、まったく内容が分からない。身元確認の調査を取られ、解放されてパリに戻ったのは深夜2時。日本に帰国後に事実を知り、総毛立ちました。犯人はイスラム過激派をかたるモロッコ国籍の26歳男性で、シリア渡航歴もあったそうです。

乗り合わせた米兵2名と、米大学生、英国人男性の4名が、負傷しながらも犯人を取り押さえ、銃乱射を未然に防ぐことができました。この事件は、先月公開されたクリント・イーストウッド監督の映画『15時17分、パリ行き』で描かれています。もしかしたら、凄惨な状況となったかもしれない。自分がそのテロ現場に居合わせたと思うと、平和のありがたさを心から感じます。

自然遺産に感動の連続!

世界一周旅行の中で最も衝撃的だったのは、『イグアス国立公園』です。大自然のジャングルの中を、大小いくつもの滝を鑑賞し、珍しい鳥類や哺乳類を見つけながら歩を進め、辿り着いた「イグアスの滝」の大迫力といったら!この感動をきっかけに、自然遺産の素晴らしさに惹き込まれました。『ガラパゴス諸島』では、

ウミグアナが町中の至るところにいて、桟橋に寝そべっているガラパゴスオットセイは、人間よりも堂々と生活している姿に思えました。また、『イエローストーン国立公園』ではまさに地球の歴史を体感できました。時間通りに噴き出す間欠泉「オールド・フェイスフル」は壮観で、「グランド・プリズマティック・スプリング」は周囲部に帯びた虹色、中心部の鮮やかな青色に、目を奪われました。

帰国後、世界遺産に絡めた仕事を考えるようになり、旅行相談窓口が併設されたレストランを開業し、世界遺産カウンセラーになれたら、と望んでいます。旅行管理業務取扱管理者の資格も取得し、現在は、専門学校の世界遺産講座で講師をしています。教科書から得られる知識も大切ですが、一見は百聞にしかず。学生たちに色々な世界を見て周ってもらいたいです。文化遺産、自然遺産、どちらも地球46億年の歴史を伝えるダイナミックなもので、人類



世界一周旅行後に訪れたエジプトにて近藤さんお気に入りの一枚

を超えた宝物。次を担う若い世代に伝わっていくことを願っています。